

# ペスト菌も寄せ付けなかった、真我の免疫力！

『病原菌ですら味方にできる生き方』をお送りします。

当時インドのマザーテレサの所で看護婦をしている人で、人を救うことに使命感を抱いているような女性がいた。

ペスト菌などいろんな病原菌が蔓延するインドに自ら進んで乗り込み、当時、日本とインドを行ったり来たりしながら生前のマザーテレサと共に日夜奮闘しておられた。その方が、真我開発講座を受講し終わったある日、私にこのようなことを言われた。

「佐藤先生、ありがとうございました。私は真我開発講座を受けて、『成功と幸福を呼ぶ言葉』を読んでいなかったら、インドでペスト菌に感染してきっと死んでいたことでしょう」

私が「なぜですか？」と問い返すと、その方は、こう答えた。

「同僚の看護婦でイタリア人がいます。この方は、日本人に大変偏見を持っています。日本語を耳にするのも嫌だそうです。ですから、当然日本語は知るはずありません。

私はインドで毎日『成功と幸福を呼ぶ言葉』を、声に出して読んでいたんです。ところが、それを読まない日に、イタリア女性が『なぜ、読まないの？』って、いいます。私は問い返しました。『だってあなた、日本人も日本語もきれいなんでしょう。なぜ、そんなことを尋ねるの？』それに対して、イタリア女性はこういいました。

『“成功と幸福を呼ぶ言葉”はものすごく良い波動を持っている。言っている事はわからないが私にはその波動がわかります』と言うのです。それ以来私はイタリア人女性をはじめとして、みんなの前で堂々と『成功と幸福を呼ぶ言葉』を読むようにしました。

私は感謝を込めて、毎日この言葉を読んでいました。そのうち、この言葉を読む人がどんどん増えてきました。患者だけでなく、職場でも病原菌にかかって死んでいく看護婦がいます。ところが、この言葉を読むようになってからというものの病原菌にかかって亡くなる方がいなくなりました。

あらゆるものを敵であると認識した瞬間、それは本当に敵になって私に食いかかってきます。しかし、すべてのものに対して感謝の念を抱くようにする。ペスト菌に対してすら感謝の念を抱くようにしたら、ペスト菌も味方になってくれるのです。だから、私は死ななかったのです」

現代人が考えなければならないことをまさに、彼女が明快な形で私に話してくれた。

もしも、目の前に犬がいたとする。この犬に向かって、拳骨を振り上げたら犬は敵愾心を持って襲いかかってくるかもしれない。ところが、座って掌に餌を載せて「さあ、おいで」と優しくいえば、きっと尻尾を振って擦り寄って来るであろう。

私たち人間社会もまさに同じ原理なのだ。ペスト菌ですら、味方になる。これは、人類すべてが考えなければならない問題なのではないだろうか。

佐藤康行 著書

『真我 第2巻 幸せの法則』

P155～に掲載



真我 100巻 大全集完成！

**「すべてのすべてと和解、真我の和解」を心の中で常に唱えること。**

佐藤康行